

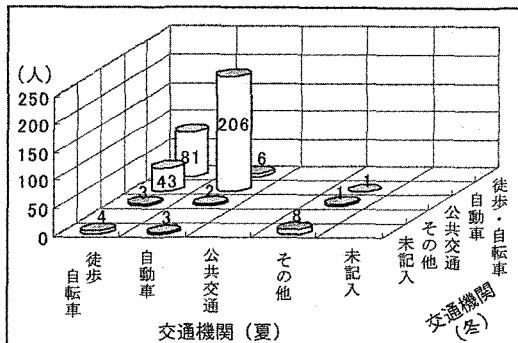


図-3 盛南地区内の移動に利用する交通手段

区の道路環境が良いこと、都心部西部の盛岡駅周辺までは渋滞があまり激しくないことが原因として考えられる。

自動車以外の交通手段を見ると、公共交通よりも徒歩・自転車利用が多いことが判る。夏の徒歩・自転車利用者は、冬になると①公共交通利用、②そのまま徒歩・自転車利用、③自動車利用、の3者に分かれ、それらはほぼ同じ割合であった。夏冬通して徒歩・自転車を利用する人の半数は、通勤通学の目的で都心部へ行くとの回答だった。これらの原因として、盛南地区と都心部が約3km程しか離れておらず自転車や徒歩移動でも苦にならないこと、公共交通や自動車と違い所要時間が読みやすいことが考えられる。

公共交通は、夏よりも冬に利用されていることが図-2から判る。冬に公共交通を利用すると答えた人のうち、約半数は夏に徒歩・自転車を利用し、夏も公共交通を使う人は約3割に止まる結果となった。

5. 盛南地区内の移動について

図-3は、盛南地区内で外出する際に利用する交通手段を示したもので、書式は図-2と同様である。都心部への移動と同じく、ここでも自動車利用が多い結果となった。

一方、盛南地区内の移動で公共交通を使う人はほとんどおらず、公共交通が盛南地区内の足として活用されていない状況がうかがえる。盛南地区内では、公共交通よりも徒歩・自転車利用が多い。盛南地区内の移動における徒歩・自動車利用の割合は、都心部への移動におけるその割合も高く、冬季においても徒歩・自転車利用が多い。夏の徒歩・自転車利用者の7割近くは、冬になってもそのまま徒歩・自転車利用を続け、自動車利用に変える人は約3割に止まった。

6. 盛南地区の交通環境に対する満足度について

図-4は、盛南地区の交通環境に関する6項目について、不満から満足まで5段階での評価結果を集計したものである。

これらの項目のうち「公共交通の利便性」と「除雪」に関しては、「不満」と「やや不満」の合計が7割近くを占めた。公共交通に関しては、路線網や本数が十分とは言えない状況にあり、フリーアンサー欄に

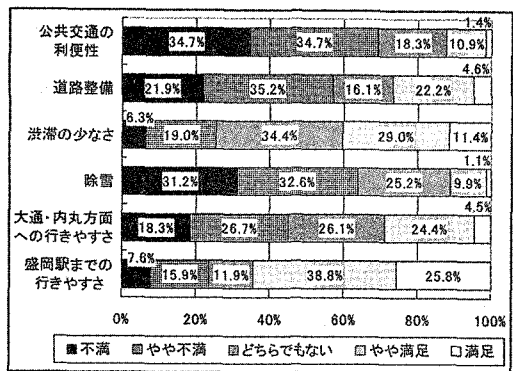


図-4 盛南地区内の交通環境に対する評価

も「最終便が早すぎる」「本数の多い路線は渋滞の影響を受ける」などの意見が寄せられた。除雪に関しては、調査期間中に記録的な大雪が降ったこと、区画整理に伴う道路工事のため除雪が難しい箇所が多いことが原因と考えられる。

満足度の高い項目は、「盛岡駅までの行きやすさ」と「渋滞の少なさ」で、前者は「満足」「やや満足」の合計が6割を超えた。現状の道路網が盛南地区内の自動車交通を十分に捌けていること、盛岡駅まではほとんど渋滞しないことが高評価につながったものと思われる。これらが盛南地区において車利用を促進させている原因の一つだと考えられる。

7. まとめ

本研究では、大規模な都市整備が進む盛南地区の住民を対象に、都心部と盛南地区内の外出実態と意識についてアンケート調査を行い、その結果を提示した。

盛南地区には大型SCが今夏開店の予定で、盛南地区内はもとより他地区からも集客が予想される。また、盛岡市が策定する市街地環状道路や市内縦断道路の建設も進んでいる。これらにより、盛南地区内の交通量は飛躍的に増加し、移動時間の増大等、自動車の利用環境は変化するものと思われる。このため、現状でも通勤通学目的での利用が多かった徒歩・自転車交通の重要度が増大するものと予想される。

また、都心部や盛岡駅西口地区と連携していく上で、円滑に移動できる交通網が不可欠である。しかし、現状で既に渋滞が慢性化している都心部との連携を考えると、自動車だけでその役割を果たすには限界がある。増加が見込まれる交通需要に応えるため、今後は公共交通の必要性が高まるものと予想される。

これらから、今後の盛南開発においては、徒歩や自転車交通を考慮した整備や、満足度を向上させられる公共交通計画の立案が必要になるものとする。

<参考文献>

- 1) 谷本真佑, 南 正昭, 安藤 昭, 赤谷隆一: 盛岡市青山地区におけるバス交通の利用実態調査, 土木計画学研究・講演集, No.32, CD-ROM, 2005.
- 2) 谷本真佑, 南 正昭, 安藤 昭, 赤谷隆一, 塚田健太, 鈴木 天: 規制緩和に伴う盛岡市近郊の公共交通の変遷について, 第4回観光まちづくり学会研究発表会, pp.9-1-9-5, 2005.